シラタマホシクサ　*Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 12。本地域の湧水湿地の代表的な固有種である。

【形　態】

1 年生草本。茎は通常ごく短いが、多少伸長することもある。葉は束生して斜上し、線形、長さ 5～30cm、幅 1～5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 8～10 月、花茎は 1 本のものから 50 本以上出るものまであり、直立して高さ 15～60cm、4 肋があってねじれ、基部に 3～12cm の鞘があり、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は球形、直径 5～10mm、総苞片は倒卵形で淡褐色、頭花より短く、小花には多くの白色の短毛がある。子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（芹沢 53594, 1989-9-27）、15 豊橋北部（芹沢 78852, 2003-9-20）、16 豊橋南部（芹沢 56675, 1990-8-28）、17 田原東部（芹沢 56701, 1990-8-28）、18 田原西部（芹沢 57929, 1990-10-23）。西：23 藤岡（芹沢 77666, 2001-9-24）、24 豊田東部（芹沢 60057, 1991-8-28）、25 豊田北西部（芹沢 62628, 1992-8-23）、27 みよし（芹沢 81094, 2006-9-27）、29 岡崎北部（芹沢 86357, 2010-10-2）。尾：37a 瀬戸（芹沢 73328, 1996-10-5）、37b 尾張旭（芹沢 53814, 1989-10-10）、38a 長久手（芹沢 78033, 2002-9-4）、38b 日進（村松正雄 27931, 2014-10-15）、39a 東郷（芹沢 59861, 1991-8-23）、42a 阿久比（渡邉麻子 720, 1995-8-30）、42b 半田（芹沢 76155, 1999-8-21）、42c 武豊（芹沢 53680, 1989-9-29）、43 常滑（相羽福松 4052, 1994-9-9）、44a 美浜（中井三従美 52, 1996-10-12）、45 犬山（塚本威彦 1404, 1994-9-29）、48 春日井（村松正雄 18978, 1999-10-23）、50 名古屋北部（鳥居ちゑ子 503, 1993-9-6）、51 名古屋南東部（芹沢 53337, 1989-9-20）。32a 刈谷（牛池、芹沢 38107, 1983-9-17）にもあったが絶滅した。

【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県東濃地方、三重県北部）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所に生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地		○		
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだあちこちに生育しており、個体数も多い。しかし、各種開発により本種が生育できる丘陵地そのものが減少しており、「どこにでも、いくらでもあった」と言われる過去の状態に比べれば、減少傾向は明らかである。過去 30 年間に消失した自生地は数多いが、その間に自然に分布を拡大して形成されたと思われる自生地は 2 例しかない。

【保全上の留意点】

湧水湿地の保全が必要である。特に尾張北部では生育する湿地が限定されており、ある湿地には多産するが、隣接する同じような湿地には全く見られないことも多い。これらの地域では、特定の小湿地の破壊が直ちに地域集団の消滅につながる場合もあり、注意が必要である。

その一方で本種は、本地域の固有種として有名でしかも花が目立つため、もともとはなかった湿地に何者かの手で播種されることも多い。その結果は、すぐに消滅することもあるが、著しく増加し、本来の自然状態に対する大きな脅威となることもある。湿地はどれも同じではなく、それぞれに個性がある。本来ないものは、「ない」のが自然の姿である。一度播種すれば、将来自然に分布を拡大してきても自生と判断できなくなり、保全の対象にならなくなる。

【特記事項】

近年自然に対する市民の関心が高まったため、「ある」という話が広まるとすぐにぞろぞろと人が押し掛け、踏み荒らされて湿地が荒廃する例があとを絶たない。「自然に親しむ」行為は、それ自体が自然破壊行為の要素を含むことを認識する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.182, 平草本Ⅰp.80, 平新版 1 p.283, 環境省 p.559, SOS 旧版 p.98＋図版 18, SOS 新版 p.90,92.